

2018 年度事業報告



学校法人 甲南女子学園



I. 学校法人の概要	・ ・ ・ 1
II. 2018 年度の主要な取組み	・ ・ ・ 3
1. 甲南女子学園創立 100 周年記念事業	・ ・ ・ 3
2. 新学部の開設・既存学部の改変	・ ・ ・ 3
3. 第 4 次中期計画	・ ・ ・ 3
4. 産・官・学連携事業	・ ・ ・ 4
5. 新校舎（10 号館）運営開始	・ ・ ・ 4
6. 大学ガバナンス改革	・ ・ ・ 4
III. 事業の概要	・ ・ ・ 5
1. 大学・大学院	・ ・ ・ 5
1) 教育体制	・ ・ ・ 5
(1) 学部教育	・ ・ ・ 5
(2) 大学院教育	・ ・ ・ 7
(3) 学修支援	・ ・ ・ 7
(4) F D (Faculty Development) ・ S D (Staff Development) 活動	・ ・ ・ 10
(5) 国際交流	・ ・ ・ 10
(6) キャリア教育（国家試験対策含む）	・ ・ ・ 12
2) 研究体制	・ ・ ・ 16
(1) 学内の各種研究助成による研究支援	・ ・ ・ 16
(2) その他研究助成	・ ・ ・ 16
3) 学生の支援活動	・ ・ ・ 16
(1) 学生生活の支援	・ ・ ・ 16
(2) キャリア支援	・ ・ ・ 19
4) 学生募集・入学試験の状況	・ ・ ・ 20
(1) 学生募集活動	・ ・ ・ 20
(2) 入学試験の状況	・ ・ ・ 20
(3) 高大接続改革の推進	・ ・ ・ 20
(4) 広報活動	・ ・ ・ 21
5) 施設関連	・ ・ ・ 21
(1) キャンパス整備	・ ・ ・ 21
(2) 情報インフラ整備	・ ・ ・ 21



6) 地域連携・社会貢献活動	・ ・ ・ 22
(1) 地域連携・貢献活動の推進	・ ・ ・ 22
(2) 産官学連携	・ ・ ・ 23
(3) 高大連携	・ ・ ・ 23
2. 中学校・高等学校	・ ・ ・ 25
1) 教育課程	・ ・ ・ 25
2) 授業力向上	・ ・ ・ 25
3) 総合学習	・ ・ ・ 25
4) 生徒指導	・ ・ ・ 25
5) 国際交流	・ ・ ・ 26
6) 進路指導	・ ・ ・ 26
(1) 2019 年度 大学合格実績	・ ・ ・ 26
(2) 甲南女子大との連携強化	・ ・ ・ 26
(3) 「キャリア教育」の充実	・ ・ ・ 27
(4) 「大学入試改革」への対応	・ ・ ・ 27
(5) 基礎期における学習習慣の確立	・ ・ ・ 27
7) 生徒募集対策	・ ・ ・ 27
8) 施設・設備	・ ・ ・ 27
財務の概要	
(1) 平成 30 年度決算の状況	・ ・ ・ 28
【資金収支計算書】	・ ・ ・ 28
【事業活動収支計算書】	・ ・ ・ 31
【貸借対照表】	・ ・ ・ 35
(2) 財務状況の推移	・ ・ ・ 37
事業活動収支計算書（5 ヲ年）	・ ・ ・ 37
主な財務比率（5 ヲ年）	・ ・ ・ 37
理事・監事・評議員名簿（平成 31 年 3 月 31 日現在）	・ ・ ・ 39
学校法人甲南女子学園 組織機構図	・ ・ ・ 40

I. 学校法人の概要

➤ 学校法人甲南女子学園(以下「本学園」という。)は、1920(大正 9)年に甲南高等女学校創立以来、「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「清く 正しく 優しく 強く」を校訓として掲げると共に、「全人教育、個性尊重、自学創造」の教育方針を持ち、阪神間を代表する女子教育機関として、豊かな人間性を育みつつ、個性に応じた才能を伸ばす教育を実践してきた。

本学園は、甲南女子大学大学院(人文科学総合研究科・看護学研究科)、甲南女子大学(文学部・人間科学部・看護リハビリテーション学部・医療栄養学部)、甲南女子高等学校、甲南女子中学校で構成され、同窓生数は 53,000 名に達している。

1. 学生・生徒数等の推移(5 月 1 日現在)

(単位:名)

区 分	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
○学生在籍者数				
人文科学総合研究科	24	21	22	25
看護学研究科	10	8	11	20
文 学 部	1,599	1,608	1,625	1,635
人間科学部	1,773	1,785	1,774	1,797
看護リハビリテーション学部	702	707	687	667
医療栄養学部	—	—	—	81
計	4,108	4,129	4,119	4,225
○生徒在籍者数				
中 学 校	541	544	561	570
高 等 学 校	515	528	531	515
計	1,056	1,072	1,092	1,085
○教職員数				
専任教職員	309	304	317	326
非常勤教職員	336	348	370	360
計	645	652	687	686



甲南女子大学の制服は開学当時のデザインを踏襲し、機能性を改良しています



2. 入学定員・収容定員・入学者数・在籍者数の概要（2018 年 5 月 1 日現在）

（ ）内は編入学者数で入学者数の内数

学 科・専 攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
文 学 部				
日 本 語 日 本 文 化 学 科	80	92(2)	320	377
英 語 文 化 学 科	120	143(0)	480	564
多 文 化 コミュニケーション学 科	70	78(0)	280	342
メ デ ィ ア 表 現 学 科	70	92(2)	280	352
文学部 計	340	405(4)	1,360	1,635
人 間 科 学 部				
心 理 学 科	90	109(0)	360	416
総 合 子 ど も 学 科	150	169(0)	570	619
文 化 社 会 学 科	80	102(3)	320	388
生 活 環 境 学 科	80	93(0)	320	374
人間科学部 計	400	473(3)	1,570	1,797
看護リハビリテーション学部				
看 護 学 科	100	107	400	412
理 学 療 法 学 科	60	64	240	255
看護リハビリテーション学部 計	160	171	640	667
医 療 栄 養 学 部				
医 療 栄 養 学 科	80	81	320	81
医療栄養学部 計	80	81	320	81
甲南女子大学 合計	980	1,130(7)	3,520	4,180
大学院人文科学総合研究科 博士前期課程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	9	1	18	2
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	13	9	26	19
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	9	0	18	1
博士前期課程 計	31	10	62	22
大学院人文科学総合研究科 博士後期課程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	3	0	9	0
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	3	0	9	1
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	3	2	9	2
博士後期課程 計	9	2	27	3
大学院人文科学総合研究科 計	40	12	89	25
大学院看護学研究科 博士前期課程				
看護学専攻	5	8	10	15
大学院看護学研究科 博士後期課程				
看護学専攻	3	5	9	5
大学院看護学研究科 計	8	13	19	20
大学院 合計	48	25	108	45
甲南女子中学校・高等学校				
甲 南 女 子 中 学 校	180	187	540	570
甲 南 女 子 高 等 学 校	180	172	540	515
甲南女子中学校・高等学校 計	360	359	1,080	1,085

Ⅱ. 2018 年度の主要な取組み

1. 甲南女子学園創立 100 周年記念事業

創立 100 周年(2020 年 11 月 27 日)に向けて、様々な記念事業を推進

〔実施事項〕

- 学生へのキャリア支援事業として、OG と連携したキャリアサポート体制を開始
- 登録有形文化財への登録完了(大学:管理棟・3 号館・渡廊下)
- 甲南女子中高の第2特別棟(芸術棟)の大規模改修工事を実施
- 周年記念事業募金の実施(2019 年 3 月末現在:156,322,687 円)

〔検討事項〕

- 100 周年記念式典として、音楽会や貴重書・浮世絵の展示会等を企画検討
- 現役学生×社会・企業連携プロジェクトとして、岡本商店街及び北野異人館協会との連携等を企画検討
- 大学内歩道整備及び正門拡幅工事を検討(歩道整備は 2019 年 6 月に着工予定)
- 中高グラウンドの人工芝化を検討(2019 年 6 月に着工予定)
- 清友園(同窓会館)改修工事を検討(2019 年度工事開始)

2. 新学部の開設・既存学部の改変

医療栄養学部及び大学院看護学研究科博士後期課程を開設、国際学部の設置検討

〔実施事項〕

- 医療栄養学部医療栄養学科を開設(2018 年 4 月度:入学者 81 名)
- 大学院看護学研究科博士後期課程を開設(2018 年 4 月度:入学者 5 名)
- 公認心理師(国家資格)の資格取得が可能なカリキュラムがスタート(人間科学部心理学科)

〔検討事項〕

- 国際学部国際英語学科及び多文化コミュニケーション学科の設置検討(2020 年 4 月開設予定)



国際学部の広告

3. 第 4 次中期計画

「教育で選ばれる大学」の基本構想のもと、4 学部 11 学科の学びの計画の 1 年目がスタート

〔実施事項〕

- 大学の最重要指標として、学生成長実感度(2018 年度初測定)を初測定(成長実感度 85.1%)
- 教育(学び)計画の進捗について、学長・学部長参加による学科別報告会(年 2 回)を実施
- ステークホルダーへの情報発信を実施(Web サイトへの掲載・報告書冊子の作成・配布)
- 高等学校・中学校の最重要指標として、学校生活満足度(生徒)を測定(満足度 84.9%昨年度 81.7%)

4. 産・官・学 連 携 事 業

多様な分野で包括的な協力関係を構築

〔実施事項〕

- 甲南病院、東灘区役所、甲南大学、神戸薬科大学、甲南女子大学が連携し(調印式:2018年11月18日)、東灘次世代医療人材育成コンソーシアムがスタート
- 兵庫県多可町との地域の活性化を目指した地域連携協定を締結(2019年3月)



多可町での調印式の様子

5. 新校舎(10号館)運営開始

2018年4月に新校舎(10号館)の運用がスタート

〔実施事項〕

- 医療栄養学部の施設では、最新の設備を備えた環境で学びがスタート
- 総合子ども学科の施設では、拡充されたコモングルームや子ども室、また設備を新規更新した実習室が移設され、利用が開始
- 学生の憩いの場として活用される Clover Commons では、併設されるコンビニエンスストアを活用した学生利用が開始



給食経営管理実習室



コモングルーム



Clover Commons

6. 大学ガバナンス改革

学長・学部長・学科長が連携し、取り巻く環境の変化に対応できる体制の構築

〔実施事項〕

- 新たな学長選考規程の制定と学部長候補者選考規程の改正を実施
- 学長選考委員会が2018年12月に発足し、委員会選考による学長候補者が決定(2019年3月)
- 学長が学部長候補者を選考する新たな方法で文学部長及び人間科学部長が決定(2019年3月)

Ⅲ. 事業の概要

1. 大学・大学院

1) 教育体制

(1) 学部教育

i) 文学部

- 文学部の教育は、人間が作り上げてきた文化・言語および文学・芸術に関する深い関心と幅広い教養を身につけることに力を注いでいる。学生が学びを通じて獲得できる成果を重視し、教職員が協働した組織的教育活動に取り組んだ。
- 日本語日本文化学科では、宝塚歌劇講座に取り組み、多くの来場者を迎え、盛況博した。本講座は文字おこしをした上で冊子として印刷、学科の広報活動にも活用した。
- メディア表現学科では、教育の質を高めるための取り組みに力を入れた。1年生の必修科目におけるアドバイザー教員との個別面談および2年生のゼミ登録申請時における教員との個別面談を必須とするなど、個々の学生の学びを丁寧にサポートできるよう教育の体制を整えた。
- 英語文化学科では、国際英語学科の開設に向けての準備を行った。特にカリキュラム表の整備、非常勤講師向けのオリエンテーション、English to Go など新規授業に向けた教材のトライアル、学生主体の e-space 運営の推進に取り組んだ。
- 多文化コミュニケーション学科では、国際学部多文化コミュニケーション学科の新プログラム準備、新カリ科目内容の検討及びそれらのパイロットの実施、教員 FD の強化、学びの動機づけ促進のための取り組み、IR の教学への活用などに取り組んだ。

ii) 人間科学部

人間科学部では、各学科、第4次中期計画の年度ごとの目標を明確にし、本年度は主に以下のような課題に取り組んだ。

[心理学科]

- 「公認心理師」の受験資格取得に繋がるカリキュラムの構築ならび指導・実習体制の整備
- 独自の就学サポートシステムによるきめ細かい指導・教育の推進
- CBT 等の導入による学習効率の向上
- AI 分析等による学修状況を診断するためのシステム開発

[総合子ども学科]

- 教員養成課程の学科としてのカリキュラム整備と認定の実現
- 保育士や教員免許の取得ならびにキャリアモデル獲得に向けての取り組みの推進
- 新しくなった「子ども室」の運営体制の整備と活用



教職実践基礎演習：総合子ども学科



➤ 子ども図書館、里山体験や学習農園、総合子どもカーニバル等、社会貢献につながる教育実践

[文化社会科学科]

- 学生の自主性やコミュニケーション能力を高めるフィールドワーク学習の可能性の追求
- 多彩な外部講師との連携による、社会ならびに社会学への関心や積極的学習意欲の喚起
- 社会学関連文献・図書の収集による教育研究基盤の強化
- SNS による学科情報、学修成果などの発信にむけての素材の収集・蓄積

[生活環境学科]

- 基礎学力の向上に向けたオリジナルプログラムの開発
- 履修系統図の作成・提示による学科の学修目標、学習の流れの可視化
- 外部連携事業（食品開発、スポーツボランティア、環境教育、自然環境学習など）の拡大
- 学科としての事業「生活環境フェスティバル」「シェフとの集い」「里地里山体験」の充実



フィールドワーク発表会：文化社会科学科

iii) 看護リハビリテーション学部

- 看護学科と理学療法学科のチーム連携科目については、医療栄養学部や神戸薬科大学との合同授業に向け、教員のチーム力向上のためにFD研修を実施した。
- 看護学科においては、質の高い教育実践についての検討を重ね、それを実施するとともに、国際力強化のために英国・豪州へのスタディ・ツアーを継続して行った。
- 看護学科においては、看護実践力修得に向けてシミュレーション教育を強化した。
- 理学療法学科においては、甲南病院、大阪鉄道病院等複数の臨床実習指導強化施設の利用により実習内容の充実を図った。
- 実習施設における実習指導者の育成に取り組んだ。
- 理学療法学科の特色であるウィメンズヘルスやスポーツリハビリテーションに関する広報を行うとともに教育の充実を図った。



チームケア科目：看護学科



iv)医療栄養学部

- 学部理念である「全人栄養教育」をめざした導入教育として「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」と「管理栄養士入門」を実施した。
- 学部に修学委員会を設置し、学生の修学状況を教員間で把握することにより適切な学生指導を実施した。
- 体系的なカリキュラムの理解促進を目的に、教員が相互に授業参観するなど、学部内FD活動を活性化した。



教員アドバイザー制度：医療栄養学科

(2)大学院教育

i)人文科学総合研究科

- 人文科学総合研究科では、高度な専門教育・研究の進화에努めながらすべての専攻コースにおいて定員の充足を目指したが、目標値に到達することができなかった。
- 臨床心理コースにおいては、取得可能であった「臨床心理士」の受験資格に加え、新たな国家資格である「公認心理師」の取得が可能となった。
- 「臨床心理士」「公認心理師」に伴って実験・実習環境の改善ならびに授業内容の整備を図った。

ii)看護学研究科

- 博士前期課程においては、3名の院生が修士論文作成に向けた研究計画書の作成および計画書の審査、本学の倫理審査を受け、順調に研究を進めてきた。
- 博士後期課程においては4名の院生が博士論文作成に向けた研究計画書の作成および計画書の審査、本学の倫理審査を受け、順調に研究を進めてきた。また、1名の長期履修院生も、当初の計画にしたがって履修を進めている。

(3)学修支援

i)カリキュラム体系

- 全学共通教育科目の質保証のため、カリキュラムポリシー(※1)に則り科目構成や内容等を最適化する全学共通教育ワーキンググループが発足した(2019年度より委員会組織に移行)。
- ディプロマポリシー(※2)で定義する4項目「知識・理解 汎用性技能 態度・指向性 総合的な学習経験と創造的思考力」及び21世紀を生き抜く力として求められる「基礎力・思考力・実践力」に基づき、全学科専攻科目のカリキュラムマップ(※3)を作成した。
- 甲南大学との単位互換協定による大学間連携講座において、前年度に引き続き、前期4名・後期8名の本学学生が甲南大学の授業を、また前・後期各1名の甲南大学生が本学の授業を受講した。

[文学部]

- 日本語日本文化学科では、共同作業によるコミュニケーション能力の向上を目的とした「人間関係トレーニング」を実施した。



コミュニケーション産業論：日本語日本文化学科



- 英語文化学科では、自己探求と学習意欲の向上を図る「自己探求セミナー」を実施した。
- 多文化コミュニケーション学科では、学科に対する帰属意識の醸成を目的に「フレッシュマンセミナー」を実施した。
- メディア表現学科では、演習や講義科目を円滑に行うために「エンカウンターキャンプ」を実施した。また思考力・発想力の基礎を作るため日本語検定の受験やメディア領域関連本の読書レポートを課した。

[人間科学部]

- 心理学科では「公認心理師」の受験資格取得に繋がるカリキュラムを構築し、指導・実習体制を整備した。また、これまで取り組んできた独自の就学サポートシステムによるきめ細かい指導・教育をさらに推進しながら、CBT 等の導入による学習効率の向上を図り、AI 分析等による学修状況を診断するためのシステムを開発した。
- 総合子ども学科は教員養成課程の学科としてのカリキュラムを整備し、再課程認定を得た。保育士や教員免許の取得ならびにキャリアモデル獲得に向けての取り組みを推進し、学生の学習意欲・能力を高めた。また、新しくなった「子ども室」について、運営委員会を設置し、保育実習や子育て支援活動の充実、拡大の可能性を拡げた。さらに、子ども図書館、里山体験や学習農園、総合子どもカーニバル等、社会貢献につながる教育実践を充実させた。
- 文化社会学科は教育研究基盤の強化を図るため、全教員が協働で社会学関連文献・図書の収集に取り組んだ。同時に、女子大生の身近な興味・関心や多様なニーズに柔軟に応えながら、社会学の基盤技術であるフィールドワーク学習の可能性と魅力を追求した。また、多彩な外部講師との連携による講演等を通して、社会ならびに社会学への関心や学習意欲を喚起した。このような学科の魅力、学修成果を可視化し広報する方法として SNS の活用等について検討した。
- 生活環境学科では基礎学力の向上をめざしてオリジナルプログラムを開発するとともに、履修系統図を作成して提示する等、学科の学修目標、学習の流れの可視化を図った。また、「生活環境フェスティバル」「シェフとの集い」「里地里山体験」を学科イベントとして恒例化することとし、さらなる充実を図るため内容を再検討、精査した。従来から力を入れている食品開発その他の外部連携事業については、学習の成果を具体的な形にして実際の暮らしに活かす力を育むことができるため、今後も拡大・充実させる方向で取り組むこととした。



環境アミニティ論：生活環境学科

[看護リハビリテーション学部]

- 看護学科及び理学療法学科共に、カリキュラムに基づき教育を実施し、評価を重ねて課題を見だし、今後の改善につなげるべく努力してきた。

[人文科学総合研究科]

- 大学院人文科学総合研究科では、指導教員を中心に、学生の個性を尊重した指導・教育に取り組んだ。
- 学位論文の審査は、公平性、厳格性を担保するため指導教員を主査から外すことにした。
- 臨床心理学コースにおいては、「公認心理師」の受験資格が得られるよう、カリキュラムを改定した。



人体の生理機能演習：理学療法学科

**〔看護学研究科〕**

- 看護学研究科ではグローバルな視点と科学的根拠を基に看護教育・研究・臨床の場において高度な課題解決能力を有する人材の養成を目的に、幅広い教育課程を構成し教育を行っている。
- 規定の修業年限を越えて学べる長期履修制度や昼夜及び週末の授業の開講を行うことから、社会人学生が就学するにあたり柔軟な学修研究環境を整えている。

〔医療栄養学部〕

- 管理栄養士養成課程の専門基礎分野の理解を深めるために、学部独自の「生物」「化学」「数学」（共通科目）を展開した。
- 3 年次から実施する臨地・校外実習に向けての実習施設を充足するとともに、施設との連携交流を強化した。
- 少人数編成での教員アドバイザー制度で学生支援体制を確立した。
 - （※1）教育目標やディプロマ・ポリシー等を達成するために必要な教育課程の編成や授業科目の内容および教育方法について基本的な考え方を示したもの。
 - （※2）卒業認定・学位授与に関する方針のこと。
 - （※3）体系的な教育課程を明確化するため、学習成果の達成にどの授業科目が寄与するかを示すこと。

ii) 学生基礎力調査の活用

- 今年度より、河合塾・リアセック社の「PROG」で基礎力調査を実施した。
- 教職員向けの解説会や学生向けの講習会を通じて、受験結果についての情報の共有、理解を図り、学生の成長を支援するためのフィードバックを推進した。

iii) 教育イノベーションプロジェクト

- 2018 年度は<成長実感 No.1>の大学を実現する新たな試みとして教職協働も含め、6 つのプロジェクトが 1 年間展開した。
- 教職員向けの成果報告会では 1 年間主体的学修の推進を軸に学生へのメリットをもたらす卓越した創意工夫と教職員が教育の質向上のために取り組んだ成果があった。

	プロジェクト名
1	女性教育検討プロジェクト
2	自学教育を通じた新たなブランディング
3	学習管理システム(LMS)の全学的活用の仕組みづくり
4	コモンルームの未来への改革プロジェクト Part2
5	臨床実習指導強化施設の構築・拡大と甲南会との連携強化
6	修学サポートポータルシステムの構築 ～pSTEM 教育の学修デザイン支援での取り組み～

**(4)FD(Faculty Development)・SD (Staff Development) 活動****[FD活動]**

- 授業公開を実施し、担当教員が思案する授業の問題点や改善点を事前に示し、見学者からのアドバイスを求める方法を取り入れた。
- 障がいのある学生に対する支援をテーマにした講演会を開催した。
- 全学 FD 委員会を改組し、学科 FD 部会を全学 FD 委員会とした。

[SD活動]

- SD活動について、2018 年度は下表の通り取り組んだ。
- 「Grow up 研修」、「Change & Challenge 研修」では、研修成果となる業務改善案について、学長へのプレゼンテーションを行った。実践へ繋げるための初の試みとなった。
- 「管理職研修」では定量的な目標管理について理解を深めた。
- 「求める職員像」を 2018 年度内に設定することができたため、今後はこの職員像を元に職能開発を目指す。

主なSD活動	対象者	受講者数	実施時期
導入研修	職員(新任)	4 名	4 月～5 月
フォローアップ研修	職員(2 年目)	4 名	6 月
Grow up 研修	職員(40 歳以下書記)	前期 18 名 後期 5 名	年 5 回
Change & Challenge(C&C)研修	職員(主任・課長補佐)	8 名	年 5 回
管理職研修	職員(組織責任者)	17 名	6 月・12 月
情報セキュリティ研修	教員・職員	教員 138 名 職員 97 名	1 月(教員) 2 月(職員)
学校経営・イノベーション研究会	常務・総務課長	2 名	年 6 回
思学塾	職員(選抜)	2 名	年 6 回
SPOD フォーラム(四国地区大学 教職員能力開発ネットワーク)	教職員(希望者)	11 名	8 月

(5)国際交流**[学生の海外派遣およびプログラム実施状況]**

- 交換・認定留学:9 か国にある提携大学 13 校のうち 11 校に派遣した。派遣者数は 49 名、と昨年度の 43 名を 6 名上回った。
- 短期海外研修:参加者数は 102 名、と昨年度 82 名を 20 名上回った。
- 期海外研修においては、実務研修の一環として、新たに NZ キャビンアテンダント研修とハワイホスピタリティ・ビジネス研修の募集を始めたが、今年度は最少催行人数 10 名を満たさなかったため実施に至らなかった。

本学学生の海外派遣状況

(派遣実績 151 名)

留学等種類	国名	派遣先/プログラム	派遣人数
交換留学	韓国	淑明女子大学校	1
	韓国	誠信女子大学校	1
	中国	天津学国語大学	1
認定留学	アメリカ	西イリノイ大学 WESL	2
	カナダ	リジャイナ大学 ESL	5
	イギリス	リーズ大学ランゲージセンター	8
	ニュージーランド	CGEL クライストチャーチ校	8
	ニュージーランド	ウェリントン・ヴィクトリア大学	9
	アイルランド	コーク大学ランゲージセンター	2
	フランス	ナント大学 SUL	2
	中国	天津外国語大学 国際交流学院	5
	韓国	淑明女子大学校 国際言語教育院	3
	インドネシア	ガジャマダ大学 INCULS	2
語学文化研修・スタディーツアー	カナダ	リジャイナ大学 ESL	21 (夏 12・春 9)
	韓国	淑明女子大学校 国際言語教育院	20
	インドネシア	ガジャマダ大学 INCULS	17
海外研修	韓国	日本語日本文化学科 海外日本語教育実習(淑明女子大学校)	4
	イギリス	看護学科 ナーシングツアー	12
	オーストラリア	看護学科 ダイバーシティケア スタディーツアー	11
	オーストラリア	理学療法学科海外研修(クイーンズランド大学)	12
海外職場研修	オーストラリア	英語文化学科 オーストラリアインターンシップ	3
	オーストラリア	英語文化学科 海外空港インターンシップ(シドニー空港)	2



カナダ/リジャイナ大学 ESL での1コマ

[外国人留学生の受入状況]

- 協定校からの受入交換留学生数は 6 名（韓国人 4 名、中国人 2 名）であった。日帰りバスツアーやプレゼンテーションなどの国際交流イベントを通して、国内での国際交流活動に取り組んだ。
- 受入短期留学生数は 28 名（韓国人 20 名、その他 8 名）であった。日本の文化や習慣を体験するプログラムやホームステイ、実習施設見学などの交流プログラムを実施した。

外国人留学生の受け入れ状況

（受入実績 34 名）

留学等種類	国名	受入大学／プログラム名	受入人数
交換留学	韓国	淑明女子大学校	2
	韓国	誠信女子大学校	2
	中国	天津外国語大学	2
短期研修	韓国	淑明女子大学校訪日文化研修	20
	イギリス	カンタベリークライストチャーチ大学訪問交流プログラム	8

[海外渡航危機管理]

- 危機管理勉強会を実施するとともに、海外渡航危機管理マニュアルの見直しを行った。危機管理シミュレーション実施に向けての準備を整えた。
- 学生対象の留学シミュレーションを実施した。留学中に直面するであろう問題について事前に心構えができる機会となった。
- 提携する危機管理会社を変更したことにより、学生、保証人だけでなく、大学に対しても、非常に有意義な情報を提供してもらうことができた。

[協定の締結]

- オーストラリアのウロンゴン大学との大学間学術交流協定を締結した。看護学部長が本学を訪れ、本協定の調印式を行った。

(6)キャリア教育（国家試験対策含む）

- 課題解決型学習（※PBL）と経験学習を組み合わせた初年次リーダーシップ科目について、2 クラスを同時に開講、上級生である LA（Learning Assistant）が新入生を指導する仕組みを拡大することができた。
（※ project-based learning）
- 昨年度から引き続き、社会人に必要とされる意識や力を育むことを目的に 8 科目のキャリア支援科目を開講した。主な科目は次のとおり。
 - ・「思考カトレーニング」（ものごとを論理的に考える力を身につける）
 - ・「ビジネスプランニング」（企業の仮想プロジェクトを企画し、計画立案力、実践力を養う）
 - ・「キャリアデザインⅡ」（企業の人事担当者や経営者から仕事や企業について考える）
 - ・「キャリアデザインⅢ」（自ら進路を考えて決定する力を実践的なトレーニングで培う）



PBL(課題解決型学習)体験講座



ⅰ)看護リハビリテーション学部

[看護学科]

- 4 職種(看護師、保健師、助産師、養護教諭)の自己選択を促す支援を初年次から始めた。
- 将来像を描けるように卒業生や現任者をモデルとして提示しイメージ化の促進支援を行った。
- キャリアプランワークシートを用いた個別支援を行った。
- 学内就職説明会を開催した。
- 国家試験対策(模擬試験、相談)を行った。2018 年度合格者数は【別表① P13】の通りである。
- 国際的な活動を目指すグローバルキャリア教育を実施した。
- 看護専門職としての個別的な成長支援としては、看護学実習ポートフォリオを活用した教育活動を行った。



アドバイザー制度：看護学科

[理学療法学科]

- 理学療法士にもとめられる基本的理学療法の実践能力の修得を強化した。
- 臨床実習指導を強化した。
- アクティブラーニングに力点をおいた教育を展開した。
- ポートフォリオを活用した教育実践を行った。
- 卒業生の卒業後教育にも積極的にかかわり、認定・専門理学療法士取得に必要な支援を行った。
- 国家試験合格率向上のために、CBT(Computer-Based Testing)を利用した効果的な学習システムを構築し実施した。2018 年度合格者数は【別表① P13】の通りである。
- 国家試験合格率向上のために、例年以上に卒業ゼミ担当アドバイザー教員が学生を個別に支援した。
- 卒業生のキャリア支援(学会学術集会での発表支援、講演会の実施等)を行った。



地域理学療法実習：理学療法学科



【別表①】

看護師・保健師・助産師・理学療法士 国家試験結果（既卒生含む）

	職 種	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率 (%)	全国平均 (%)
2018 年度 9 期生 (2019 年 2 月 受験)	看護師	95	94	98.9	89.3
	保健師	31	31	100.0	81.8
	助産師	8	8	100.0	99.6
	理学療法士	64	61	95.3	85.8
2017 年度 8 期生 (2018 年 2 月 受験)	看護師	109	109	100.0	91.0
	保健師	37	36	97.3	81.4
	助産師	9	9	100.0	98.7
	理学療法士	77	75	97.4	81.4
2016 年度 7 期生 (2017 年 2 月 受験)	看護師	107	102	95.3	88.5
	保健師	34	34	100.0	90.8
	助産師	5	5	100.0	93.0
	理学療法士	69	68	98.6	90.3
2015 年度 6 期生 (2016 年 2 月 受験)	看護師	81	81	100.0	89.4
	保健師	24	24	100.0	89.8
	助産師	6	6	100.0	99.8
	理学療法士	75	64	85.3	74.1
2014 年度 5 期生 (2015 年 2 月 受験)	看護師	100	97	97.0	90.0
	保健師	45	45	100.0	99.4
	助産師	3	3	100.0	99.9
	理学療法士	61	57	93.4	82.7
2013 年度 4 期生 (2014 年 2 月 受験)	看護師	83	82	98.8	89.6
	保健師	70	61	87.1	86.5
	助産師	5	5	100.0	96.9
	理学療法士	57	56	98.2	83.7
2012 年度 3 期生 (2013 年 2 月 受験)	看護師	104	104	100.0	88.8
	保健師	97	96	99.0	96.0
	助産師	4	4	100.0	98.1
	理学療法士	59	56	94.9	88.7
2011 年度 2 期生 (2012 年 2 月 受験)	看護師	70	70	100.0	90.1
	保健師	60	53	88.3	86.0
	助産師	2	2	100.0	95.0
	理学療法士	77	71	92.2	82.4
2010 年度 1 期生 (2011 年 2 月 受験)	看護師	59	59	100.0	91.8
	保健師	55	53	96.4	86.3
	助産師	4	4	100.0	97.2
	理学療法士	50	40	80.0	74.3

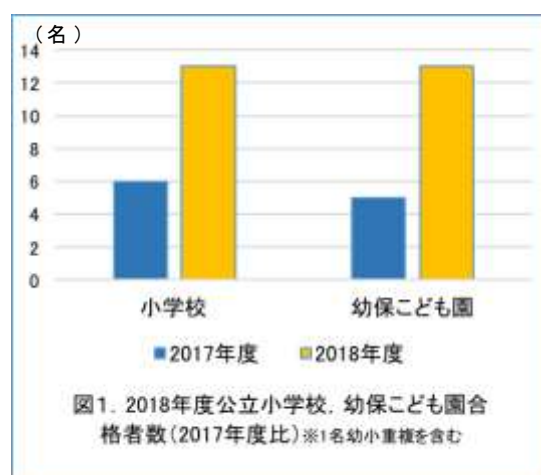
ii) 人間科学部

[総合子ども学科]

- 学生のキャリアイメージ形成の為、教職実践基礎演習、教職実践演習などの授業を用いて保育所、幼稚園、小学校勤務経験のある卒業生を招き実践について学んだ。
- 公立保育所、公立幼稚園、公立こども園採用試験対策として、模擬試験を2回実施した。第一回(4月末)は2018年度に採用試験を受ける4年生15名対象、第二回は2019年度28名対象。
- 2018年度は、保育士資格103名、幼稚園教諭第一種免許130名、小学校教諭第一種免許58名が資格・免許を取得(表1参照)した。
- 2018年度の小学校教員採用試験合格者13名(昨年度6名)、小学校非正規任用6名(昨年度7名)、公立幼保こども園合格者13名(昨年度5名)、幼保こども園非正規任用2名(昨年度4名)と昨年度から合格者が大幅に増加した。(図1参照)
- 私立幼保こども園・施設就職内定者数は62名と昨年度と比較して約7%増加し、養成校としての役割を果たした。

表 1.
2018 年度資格・免許取得者数

保育士資格	103
幼稚園教諭免許	130
小学校教諭免許	58
保育士のみ	0
幼稚園のみ	8
小学校のみ	2
幼小	18
保幼	65
保幼小	38



iii) 医療栄養学部

- 管理栄養士としてのキャリア意識醸成のため、「管理栄養士入門」において、多様な職域に対する理解を深めた。
- キャリアとも直結する臨地・校外実習先として、初年次において109施設を開拓した。
- キャリア形成に必要な文章作成能力の向上を目的に、「文章書き方講座」を実施した。



企業インターンシップの支援: 医療栄養学科

2) 研究体制

(1) 学内の各種研究助成による研究支援

➤ 教育力及び教育の質の向上に繋げるべく、研究活動の更なる発展を図るため次の通り助成した。

助成制度	内訳(前年度)
教育研究申請奨励基金	出版助成 1(2) 海外視察 2(0) 研究活動 8(1) その他 0(0)
科研費申請奨励金	2(3)

(2) その他研究助成

➤ 外部資金の獲得額

外部資金名(研究代表者分)	件数	金額(単位千円)
共同研究	4(0)	10,375(0)
受託研究	1(0)	4,030(0)
科学研究費助成事業	48(43)	37,300(38,070)

➤ 新たに制定した規程

PD(ポストドクター)規程、RA(リサーチアシスタント)規程、奨学寄附金規程、共同研究規程、受託研究員規程、病原体安全管理規程、感染動物実験規程

➤ 研究費の不正使用防止のため、科学研究費助成事業等の執行様式を変更した。

➤ 研究倫理審査の様式を変更し、審査が効率的に行えるようにした。

➤ 研究倫理委員会の主催による研究倫理研修会を開催した。

➤ 本学が実施するべき研究倫理研修会は教員全員が受講することが必要なため、複数回実施した。

3) 学生の支援活動

(1) 学生生活の支援

i) 奨学金事業

➤ 100周年記念事業の一環として甲南女子大学独自奨学金に含まれる甲南女子大学奨学金の予算枠を増額し、採用数を増やした。

➤ 2020年度に開始となる高等教育無償化の対応に係る準備を行った。



(単位:名)

	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
日本学生支援機構	1,534	1,480	1,559	1,586	1,678
甲南女子大学独自奨学金	66	77	73	70	79
その他外部奨学金	51	41	29	15	12
合計	1,651	1,598	1,661	1,671	1,769
5 月 1 日学生数	4,147	4,108	4,129	4,119	4,225
学生数比	40%	39%	40%	41%	42%

ii) 学生寮運営事業

- 2019 年度入居者より、一室当たり 8,000 円の値上げを実施するにあたり、先行投資として食堂床張替他、老朽化した施設の改修等を図った。
- 実態を反映した寮規則改正を行った。
- 寮食事内容について改善要望に対応するため、提供業者である大学生協と学生を交えて話し合い、後期から食事内容の改善を行った

iii) 学生の安全確保

- 過去 3 年にわたり後期オリエンテーション時に、1 年生全員と当日出勤の教職員が避難訓練を行った。
- 教学システムに実装されている安否確認システムの動作確認を行った。



学生フリースペース(10 号館 2 階)

iv) 学生サービスの充実

[学生フリースペース(10 号館 2 階)]

- 約 300 人分の座席を設置し、大学生協運営によるコンビニエンスストアの誘致を行った。
- 予想を上回り昼食時の利用者が多く、座席不足の状態が見られたことから、年度途中より机及び座席を追加した。
- 学生からの意見を参考に、愛称「Clover Commons」を決定した。

10 号館 2 階学生アンケート結果

(前期は 2018 年 4 月実施・後期は 2018 年 10 月実施)

満足度	前期	後期
大変良い	312	225
良い	177	242
悪い	4	9
大変悪い	1	0
回答なし	0	16
合計	518	492

利用目的 (複数回答有)	前期	後期
食事	321	352
勉強	172	225
休憩	223	301
その他	0	13
回答なし	0	0
合計	716	891

[100 円朝食提供]

- 教育後援会の補助を受け、大学生協の協力を得て春季及び秋季に 100 円朝食を提供おり、出食件数は期間中(47 日間)合わせて 1,478 食であった。

[フィットネスルームの充実]

- 健康増進の一環として、4 月よりフィットネスルームにトレッドミル 2 台、エアロバイク 1 台を導入し、その後教育後援会の寄付を得てエアロバイク 1 台を増設し学生の健康増進を図った。
- フィットネスルームの利用が対前年比 2.7 倍になった。

v)保健センターの運営

- からだの支援室とこころの支援室が連携しながら利用者のサポートを行っており、2018 年度は学生の利用者が対前年比 14%増加した。

vi)障がい者への対応

[学生支援]

- ノートテイク支援希望学生 1 名に対し協力を申し出た学生 29 名、実際に支援を行った学生 2 名、のべ授業回数 13 回の支援を行った。

学生生活に関して支援を必要とする学生

(単位:名)

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
学生支援※1	10	10	15	22	19
学科支援※2	11	12	8	8	1
障害のある学生※3	11	10	10	9	6
観察学生※4	16	14	15	61	50

※1 主治医の診断書と本人の主訴を基に学生支援連絡会議により対応を検討する

※2 アドバイザー教員を主体として学科と連携して支援を行う

※3 障がい者認定を受け、手帳を所有している。

※4 保健センターでの援助を主とし、必要に応じてアドバイザー教員への連絡を行う

vii)コモンルーム(文学部・人間科学部)

- 教職員は、学生に寄り添いながら、学習習熟度の向上を図った。
- 教職員は、社会人としてのマナーを身につけるよう、指導を行った。
- 学生が、安心・安全・快適に過ごせるように、また、学科の学びの特色を活かせるように環境を整えた。
- アンケートの実施により、学生の満足度やニーズを把握し、コモンルーム運営に役立てた。
- 2020 年度の国際学部の開設に向け、国際英語学科及び多文化コミュニケーション学科の学生の学修動機を高める場にするとともに専門教育と連動した学びの場となるように検討を行った。



生活環境学科コモンルーム



(2)キャリア支援

- 6月までに内定を得られなかった4年生に対して、早期の求人相談会を7月に開催、以後、継続的に毎月1回開催し、さらにはハローワークとも連携するなど未内定学生の就職につなげることができた。
- キャリアセンターだけではなく、併設するキャリアcommonsにもスタッフを1名常駐させるなど、学生相談体制の一層の強化を図った。
- スタッフによる企業訪問を経て企業との関係強化を開始、2月には優良企業66社を学内に招き3年生対象の企業セミナーを開催、延べ約3,000人の学生が参加、3月からの本格的な就職活動への動機づけを学生に行うことができた。
- 4年生による下級生への就職サポート制度（ピアサポート）の開始、延べ100人以上の学生が参加した。

[教職支援]

- 東京アカデミーによる教員採用試験対策講座の内容を改善したことにより、受講者が増加し、公立小学校合格者、公立保育園・幼稚園の合格者が昨年度から増加した。
- 中高教職課程学生支援のための Teacher's Café の立ち上げにより、中高教職課程の履修に意欲的に取り組む学生が増え、履修を途中で辞める学生も減少した。
- 教職支援課配置教員2名による幼保実践講座では、主に幼稚園や保育所、施設などの現場で役立つ技能や知識が身に着く講座を昼休みに実施し、参加者から好評を得た。
- 教員採用試験合格者による説明会を実施し、ロールモデルとの交流により学生のモチベーションを高めることができた。

＜2018年度(2019年夏受験) 東京アカデミー教員採用試験対策講座＞

講座開講時期:2018年11月～2019年3月

講座名	教員採用試験対策 51名(36名)				共通対策 22名(4名)	公立幼保対策 54名(19名)		
	教職 教養	一般 教養	人物試験対策	小学校 専門	一般知能	社会科学	人文科学・社会科学	神戸市 幼稚園 併願
受講者数	21名	12名	13名	8名	22名	20名	20名	14名

2017年度東京アカデミー教員採用試験対策講座受講者のうち、教員・保育士就職者数

就職状況	公立小学校教員:10名(6) 公立小学校講師:5名(5) 公立中高講師:1名(1)	公立保育士:4名(3) 公立幼稚園教諭:4名(0)(※2) 私立保育士:0名(3) 私立幼稚園:4名(3)(※2)
------	---	---

※1 就職状況は1月調査時点での状況。

※2 幼保連携型認定こども園への内定者は幼稚園教諭に計上。

＜Teacher's Café 実施概要＞

参加者(中高教職課程履修学生のうち希望者対象)	日本語日本文化学科 5名、英語文化学科 7名、多文化コミュニケーション学科 1名 (計13名)
主な活動内容	・グループ学習(週1回):参考書の輪読等 ・合同勉強会 (月1回、火曜日5限)10月9日、11月6日、12月4日、1月8日、2月5日 宿題:事前に決められたテーマの小論文を作成。 当日:集団討論(面接)、教員による講評、質疑応答

<2017 年度 幼保実践講座>

項 目	赤ちゃん抱っこ・おむつ替え(※1)	なかよし遊び	集会に役立つ遊び	手袋シアター・エプロンシアター
開催日	5/25～6/30(6回)	5/23・24	5/30・31・7/4	6/6・7
参加者	114 名	7 名	5 名	5 名
項 目	簡単な手作りおもちゃ・ペープサート	パネルシアター作り	フェルトで手作り名札(※2)	体を動かす遊び
開催日	6/13・14	11/21・22	11/28～12/7(7回)(※3)	12/12・13
参加者	8 名	11 名	22 名	11 名

※1 「赤ちゃん抱っこ・おむつ替え」に参加できなかった1名の学生のために、6/14に個別実施。

※2 「フェルトで手作り名札」は4/27, 5/7, 5/11, 5/17に実習前の学生(5名)に個別でも実施。

※3 時間内に終わらなかった学生たちのために、11/29～12/7まで延長で実施。

4) 学生募集・入学試験の状況

(1)学生募集活動

- オープンキャンパス来場者数は昨年度比 119%となった。新たな取り組みとして 12 月のオープンキャンパス時にセンター模試を実施した。
- 入試相談会 47 件、高校内ガイダンス 111 件、模擬授業 27 件、大学見学会 13 件の活動を行った。

(2)入学試験の状況

- 総志願者数は 14,441 名(昨年度比 117%)であったが、文学部、人間科学部で増加、看護リハビリテーション学部、医療栄養学部は減少した。
- 入学者数は 1,167 名(定員超過率 1.19%)となった。

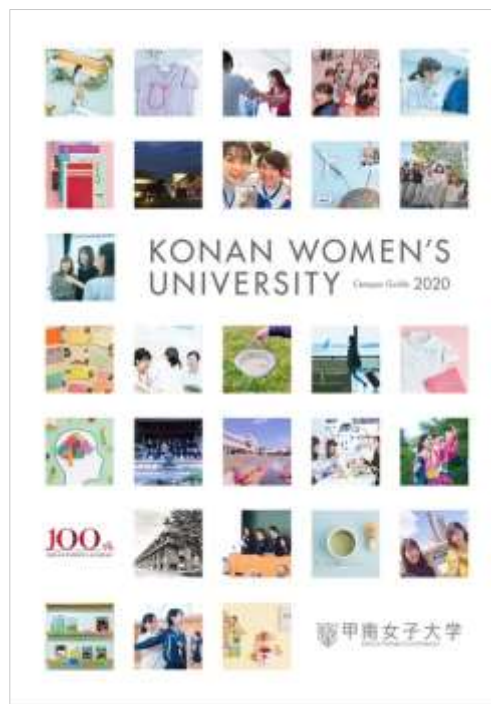
(3) 高大接続改革の推進

- 高大接続改革に係る講演会を実施した。
- 新たな入学者試験選抜制度の検討を行うため、高大接続入試改革ワーキングチームを設置し、大学講座を活用した内部進学選考を 2019 年度入試から実施、総合型選抜を 2020 年度入試からの導入を決定した。
- 入学者選抜改革における英語4技能の評価について、外部検定試験を利用した入試制度の検討を行い、2020 年度入試からの導入を決定した。



(4) 広報活動

- 従来型から転換し、受験産業広告はコストパフォーマンスを向上した。募集環境への影響を勘案しつつ、執行率を75%に抑制
- 新大学案内は3月オープンキャンパスに提供できるよう対応し、3月初版・6月改訂増補版の2段階リリースを実現した。
- 多角的な発信として、プレスリリースを利用して広く社会に訴求し、年間30件(昨年度比200%)行った。
(うち紙面掲載は19件(昨年度比316%))
- SNSは、口コミによる情報伝達と災害時の連絡手段として活用し、Twitter 188ツイート(昨年比559%)、2451いいね(昨年比592%)、LINEともだち数6,866(昨年比287%)となった。



大学案内 2020(コンプリート版)

5) 施設関連

(1) キャンパス整備

i) 環境の向上

- 経年劣化で老朽化が目立つ第1学生会館3階と4階のトイレをリニューアルし、清潔で快適な空間を整備した。
- 8号館4階AV制作スタジオの空調施設を更新し、学習環境の向上を行った。

ii) 建物維持管理

- 経過年数の古い管理棟及び8号館に設置されているエレベータについてリニューアルを実施し、機能改善を図った。

(2) 情報インフラ整備

i) 講義室AV機器更新

- 経年劣化による機器のトラブル解消のため、利用頻度が高い3号館大教室2室を改修し、学習環境の改善を図った。

ii) 情報セキュリティ

- USBメモリーなどの紛失やコンピュータウイルス感染による情報漏洩対策として、全教職員を対象に情報セキュリティ研修を実施し、意識向上を図った。

iii) 情報システム更新

- 自学自習環境を提供する目的で、学生が自宅で大学が提供するMicrosoft Officeの機能が利用できるOffice365環境を整備し、学生の学習環境の充実を図った。

6) 地域連携・社会貢献活動

(1) 地域連携・貢献活動の推進

- 地域住民を対象とした公開講座を行った。2018 年度は医療栄養学部開設記念『栄養で救える生命(いのち)がある』をテーマとし、4 回シリーズで講座を実施し、延べ 517 人の参加者があった。
- 東日本大震災復興支援を目的とするオルガンチャリティコンサートを実施した。第 1 回 366 人、第 2 回 292 人の参加者があった。
- 社会貢献の一環として学生グループの活動を応援する「学生プロジェクト応援基金」には、9 学科からの応募があった。また、各団体による成果報告会を開催し、活動を振り返ることにより学ぶ機会となった。

[教員免許状更新講習]

- 8 月に実施した教員免許更新講習では、免許更新に必要な 30 時間全ての講座を本学で受講できるよう開設講座数を増やし、地域の現職教員や卒業生に受講の機会を提供した。
- 昨年度の約 2 倍にあたる延べ 497 名に受講の機会を提供し、地域社会に貢献した。受講料収入においても、昨年度比 125%と、大幅に増額した。



オルガンチャリティコンサート

<2016 年度 教員免許状更新講習 開設状況>

科目	必修	選択必修	選択	選択	選択(3 講座)	合計
開催日	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	
受講者数	95 名	81 名	99 名	100 名	122 名	220 名

<地域別受講者数(実数・受講者の住所地による)>

地域	受講者数(実数)	受講者率
神戸市	62 名	29.0%
兵庫県(神戸市を除く)	104 名	48.6%
大阪	42 名	19.6%
京都	1 名	0.5%
滋賀	1 名	0.5%
奈良	1 名	0.5%
和歌山	1 名	0.5%
神奈川	1 名	0.5%
福岡	1 名	0.5%
合計	214 名	100.0%

(2)産官学連携

- 株式会社阪急阪神百貨店(西宮阪急)開店 10 周年記念で本学プロデュース商品の企画・販売を行う事業に参加した。

連携企業
株式会社アイ・フーズプランニング(いちはし)
株式会社ドンク
株式会社ロック・フィールド

- 株式会社宮之浦加工グループ(フルーツビネガー(飲む酢))と株式会社チャイナロードジャパン(菓子)において新たな共同事業を開始した。
- 株式会社新月堂、お茶の藤原園、株式会社ウエシマコーヒーフーズにおいて、継続して共同事業を行うこととした。
- 東灘区との連携事業として、東灘区民センターで生涯学習講座を実施した。次年度に向けて、実施回数や場所、講座内容について東灘区と検討した。
- 神戸市および市内 7 大学と連携し、ナレッジキャピタルでの合同展示を行った。
- 神戸市の学生交流拠点を利用し、留学生たちによるイベントを開催した。また、神戸市職員を本学に招き、神戸のまちづくりに関する講義を留学生対象に実施した。

(3)高大連携

- 本学と甲南女子高等学校との協定に基づき、高大連携講座「大学講座」を開講し、2 年生 14 名・3 年生 16 名の高校生を受け入れた。
- 兵庫県立芦屋高等学校とも協定を結び、理学療法学科専攻科目に 2 名の受講者を迎えた。



ナレッジキャピタルでの合同展示

主な地域連携事業

イベント名	連携先	内容
阪急・阪神ひとえきウォーク	阪急阪神ホールディングス	本学学生がウォーキングコースの考案、健康チェックなどを行った。 一般参加者約 300 人。
本山第三小学校「森たんけん」	神戸市立本山第三小学校、あいな里山茅葺き同人	里山で自然観察・採集、自然遊びなどの環境体験学習を行った。 本山第三小学校児童 126 人、本学学生約 20 人が参加。 ※年 3 回実施。雨天のため第 1 回は中止
夏休みこどもいろいろ体験スクール	東灘区役所	キャンパスに東灘区内の児童を招き、ゲームや里山体験を行った。 児童 29 人と保護者が参加
大学都市 KOBE！発信プロジェクト 「神戸 8 大学の魅力発信」と 「神戸の魅力発信-8 大学から」	神戸市、甲南大学、神戸学院大学、神戸女子短期大学、神戸松蔭女子大学、兵庫医療大学、神戸芸術工科大学、神戸常磐大学	グランフロント大阪ナレッジキャピタル内アクティブラボにて神戸市内 8 大学が連携し、それぞれの大学の魅力および神戸の魅力を発信する中で、1 ヶ月間、甲南大学と合同で展示を行った。また夏休みの 8 大学合同イベントでは産学共同開発の商品の展示・配布、教員による講義を行った。 ラボ展示（1 ヶ月間） 約 11,800 人、合同イベント（2 日間）約 220 人が参加。
子どもサポーター講座とチャイルドフェスティバル	甲南大学、東灘区社会福祉協議会	子どもたちの遊びのブースを大学生（甲南大学、本学など）が企画・運営した。 一般来場者 約 500 人。
岡本一斉クリーン作戦	岡本商店街振興組合、東灘区役所、甲南大学、神戸薬科大学	地域の多数の団体と協働で、ゴミ拾い、ガム取りなどの清掃活動と、駅前での啓発活動を行った。 本学学生 12 人が参加。 ※年 2 回実施。雨天のため第 1 回は中止
東灘ファミリーフェスティバル	東灘区役所	産学共同開発の「コーヒー＆プチスイーツ」の提供とレクリエーションゲーム等を行った。 一般来場者約 1,800 人。
学園創立 100 周年記念 企業・社会連携プロジェクト	北野異人館、岡本商店街振興組合	地域の団体と連携し、活性化するアイデアを計画した。2019 年度に実施の予定である。 本学学生 70 人が参加。
食育フェア	東灘区役所	ブースに来場した児童に、食に関する絵本の読み聞かせと、手作りクッキーの提供を行った。 一般来場者約 800 人。
生涯学習講座（年 1 回）	東灘区役所	演題『母子手帳って、すごい！』 一般来場者 16 人。
クリスマスチャリティーコンサート	芦屋交響楽団	東日本大震災復興支援を目的とするチャリティーコンサートを実施した。 一般来場者 1,293 人。



2. 中学校・高等学校

1) 教育課程

- 生徒への授業アンケートも定着し、より生徒を成長させることができる授業づくりに努める事に役立てた。
- 教員相互の授業観察により、教員間の自己研鑽に役立てた。
- 2年目となった電子黒板、タブレットの利用について、より高度な活用ができるようになり、生徒の理解を助けることに役立てた。
- コース(スタンダード、S アドバンスト)ごとの教育課程の独自性についても、コース編成のあり方を考慮しながらコースブランディングの具現化を検討中である。

2) 授業力向上

- 本校の教育理念のもと、新しい時代に対応した教育課程の具体化を進めるため、プロジェクトを立ち上げ、2019年度以降の中学校課程の編成、2022年度以降の高等学校課程の研究と編成について、「新・学習指導要領」に沿った新しい学力観を考慮しながら現存の高1探求を始めとする学校行事を見直した。

3) 総合学習

- (1)実際に現地に足を運び、聴き取りや体験などを通して実践的で対話的な学びを行った。
- 中2 広島研修旅行(9/28~29), 中3 保育体験(7/9~11), 高1 水俣研修旅行(10/25~27)と校外1日研修
- (2)メディアからの取材, 外部機関との連携を行った。
- 水俣研修旅行の取材(高1, 中国新聞, 神戸新聞 12/17)
- 首都大学東京・保前文高准教授の出張講座(高1, 朝日新聞社主催「プロフェッサービジット」)
- 「2030 SDGsカードゲーム」体験(中2, 一般社団法人イマココラボ公認ファシリテーターの指導)
- (3)学習成果発表会を開催(2/19)し, 1年間の学びを伝え共有する機会を持った。高3を除く本校生, 甲南小, 甲南高中, 甲南大が参加

4) 生徒指導

- 基本的なしつけ(挨拶・清掃・整理整頓・無遅刻)など、基本的な生活習慣を平素の学校生活の中で徹底させた。
- 生徒の安全対策(登下校時の見守り・部活動で遅くなった場合の集団下校)を徹底させた。防災・避難訓練、救命方法の講習を実施した。
- 不登校やいじめなどに適切に対応でき、生徒が安心して通学・成長できる環境を維持・向上するため、教育相談委員会、担任、学年団、生徒指導部、養護教諭、スクール・カウンセラーが相互に密接な連携を図り、問題の早期発見・早期対応に努めた。また、「いじめに関するアンケート」を行い、問題の早期発見・早期対応に努めた。
- 学校行事や生徒会活動など、学年・コースの枠を超えた生徒主体となる活動の充実に努めた。
- 生徒指導上の情報共有や共通理解を深め、こころの教育の充実を図った。
- 部活動をとおして、組織の一員としての役割や人間関係のありようを学び、競技・技能をとおした自己を実現する場として、学習との両立を図った。



5) 国際交流

- 計画通り、多岐にわたる国際交流を実施した。【別表参照】
- 2019 年度にむけ新規の中期留学を確定した。
- 留学・ホストファミリー、短期留学・研修旅行の説明会を開催した。(6 月, 3 月)
- 中 1 全員を対象とする「イングリッシュキャンプ」(2/4~5, 国内研修)を実施した。

【別表 国際交流実績】

期間	相手国:学校	送出	受入
長期	ドイツ:デートリッヒ・ボンヘッファー・ギムナジウム	2018 年度なし	2018 年度なし
	イギリス:クイーンズウッド	1 名 9 月~翌 7 月	
	アメリカ:公益財団法人 YFU 留学 各派遣高校	2 名 9 月~12 月	1 名 6 月 6 日間
中期	オーストラリア:セントマーガレッツ・アングリカン・ガールズ・スクール	2 名 7 月~9 月	2 名 10 月~12 月
	オーストラリア:ダルウッチハイスクール		1 名 9 月~10 月
	アメリカ:エマ ウィラード	1 名 9 月~12 月	1 名 4 月~6 月
短期	オーストラリア:セントマーガレッツ・アングリカン・ガールズ・スクール, シドニーガールズスクール	17 人 夏休み約 16 日間	
	カナダ:現地語学学校 (隔年実施/次回 2019 年度実施)		
	イギリス:クイーンズウッド		13 名、10 月 3 日間
	イギリス:セントヘレンズ		6 名、10 月 4 日間
	アメリカ(ハワイ):ル・ジャルダン		3 名、6 月 2 週間
	シンガポール:南洋女子中学校 (隔年実施/次回 2019 年度)		
	韓国:培花女子高等学校 (隔年実施)	7 名 8 月約 7 日間	
	アメリカ:ロサンゼルス英語研修	28 名 3 月 9 日間	

6) 進路指導

(1) 2019 年度 大学合格実績

- 国公立大学合格者数 41 名(内 6 名が既卒)。昨年度 55 名(内 7 名が既卒)から減少。センター試験後の出願指導に課題を残す結果となった。
- 一橋大学、ICU、早稲田、立教など関東圏の大学を受験する生徒が増加。
- 大阪大学世界適塾入試により 3 名が合格。
- 看護学部を志望する生徒は増加傾向のため、内部進学基準を再考中である。

(2) 甲南女子大との連携強化

- 医療栄養学部 施設見学(全学年 保護者対象):約 140 名参加
- 甲南女子大 学部説明会(高 3 生徒および高校保護者対象):生徒 20 名、保護者 30 名参加
- 大学授業見学(高 3 生徒対象):13 名参加
- 医療栄養学部 体験授業(高校生対象:6 名参加)



- 医療栄養学科の授業を大学実習教室で実施：高 2 選択授業「フードデザイン」受講生対象
- 理学療法学科による出張授業：中 3 保健体育の授業
- 大学講座を活用した内部進学制度を策定
- 看護学科による中 3 衛生講話の実施を企画（2019 年度からの実施が決定）

(3)「キャリア教育」の充実

- 読売教育ネットワーク「早期医療体験プログラム」：高 2 年 1 名参加
- 関西大学システム理工学部 合同オープンラボ『指揮者ロボットを作ろう』：高 1 年 4 名参加
- 甲南大学マネジメント創造学部「ビジネス研究プロジェクト」授業体験：
中 3 年 11 名、高 1 年 17 名参加

(4)「大学入試改革」への対応

- 高校 1 年生からポートフォリオ作成を始めた。
- 夏期休暇の英語検定対策講座を企画した。

(5) 基礎期における学習習慣の確立

- 7 時間目に自習を体験させ、中学での家庭学習の方法を実践させた。
- 「手帳」を有効に利用し、長期休暇の学習計画を立てさせた。
- 学力推移調査の結果をふまえて、放課後の希望補習を実施した。

7) 生徒募集対策

- 本校の充実した教育環境や積極的な取り組みを、ホームページや学校説明会、オープンスクール、塾説明会、電車内広告など、様々なメディアを利用して積極的に発信するように努めた。
- ホームページについては、100 余りの新着情報と学校紹介動画などで、生徒たちの活動の様子がより伝わるように工夫した。
- 説明会・相談会は、従来のものに加え、塾生対象説明会を校内で 5 回実施した（昨年 は 2 回）。また、100 周年に向けた広報活動として、生徒による「100 周年記念実行委員会」を立ち上げ、記念冊子、記念ファイルを作成、学校説明会で配布した。
- 第 2 次実行委員会が来年度に向けた自主的な取り組みを始めている。

学校説明会	1 回目	185 組 (226 組)
	2 回目	324 組 (270 組)
	3 回目	326 組 (410 組)
塾生対象説明会		124 組 (24 組)
計		959 組 (930 組)
() は前年		

8) 施設・設備

- (1) 資料室カウンセリングルーム建築改修
- (2) 遠的場屋根設置（競技力向上）
- (3) アーチェリー場壁面改修（老朽化改修）

財務の概要

(1) 平成 30 年度決算の状況

【資金収支計算書】

【収入の部】

(単位:千円)

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
学生生徒等納付金収入	6,117,899	5,886,772	231,127	103.9%
手数料収入	122,894	115,023	7,871	106.8%
寄付金収入	95,052	100,374	△ 5,322	94.6%
補助金収入	568,526	472,985	95,541	120.1%
資産売却収入	1,639,524	2,104,853	△ 465,329	77.8%
付随事業収入	87,578	79,830	7,748	109.7%
受取利息・配当金収入	195,579	150,339	45,240	130.0%
雑収入	128,194	137,192	△ 8,998	93.4%
前受金収入	1,188,086	1,140,545	47,541	104.1%
その他の収入	876,637	4,338,512	△ 3,461,875	20.2%
資金収入調整勘定	△ 1,230,777	△ 1,168,208	△ 62,569	105.3%
計	9,789,192	13,358,217	△ 3,569,025	73.2%
前年度繰越支払資金	6,251,266	6,212,911	38,355	100.6%
収入合計	16,040,458	19,571,128	△ 3,530,670	81.9%

『収入の状況』

資金収入計(前年度繰越支払資金を除く)は、前年比 35 億 69 百万円減の 97 億 89 百万円となった。主な減少は、その他の収入の 34 億 61 百万円減で特定資産の債券・定期預金満期償還の 39 億 9 百万円減少によるものである。

【支出の部】

(単位:千円)

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
人件費支出	3,818,483	3,689,178	129,305	103.5%
教育研究経費支出	1,207,537	1,134,525	73,012	106.4%
管理経費支出	682,013	707,553	△ 25,540	96.3%
施設関係支出	253,922	3,061,586	△ 2,807,664	8.2%
設備関係支出	210,379	884,118	△ 673,739	23.7%
資産運用支出	2,857,352	3,686,733	△ 829,381	77.5%
その他の支出	735,190	680,878	54,312	107.9%
資金支出調整勘定	△ 413,159	△ 524,709	111,550	78.7%
計	9,351,717	13,319,862	△ 3,968,145	70.2%
次年度繰越支払資金	6,688,741	6,251,266	437,475	106.9%
支出合計	16,040,458	19,571,128	△ 3,530,670	81.9%

『支出の状況』

資金支出計(次年度繰越支払資金を除く)は、前年比 39 億 68 百万円減の 93 億 51 百万円となった。主な減少は、施設関係支出の 28 億 7 百万円減は 29 年度大学 10 号館他建物・構築物取得の減少であり、資産運用支出の 8 億 29 百万円減の内訳は有価証券等の長期運用支出(財投債・社債他・定期預金)3 億 68 百万円の増加と、1 年以内の短期運用支出(金銭信託)12 億円の減少によるものである。

【資金収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増	減	増減率
資金収支差額	437,475	38,355	399,120		1140.5%

※資金収支差額＝資金収入計－資金支出計

『資金収支差額』の状況

資金収支差額は前年比 3 億 99 百万円増の 4 億 37 百万円となった。この結果、次年度に繰越される支払資金は 66 億 88 百万円となった。

平成 30 年度の主な施設設備整備事業は次のとおりである。

大学	1. 芦原講堂 演出照明 LED 化工事	51,246	千円
	2. 8 号館 空調改修工事	37,692	千円
	3. 10 号館 中和装置設置工事	23,976	千円
中高	1. 特別教室棟 改修工事(100 周年事業)	53,404	千円

【活動区分資金収支計算書】

(単位:千円)

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
教育活動による資金収支				
教育活動資金収入計	7,076,944	6,762,376	314,568	104.6%
教育活動資金支出計	5,708,033	5,531,256	176,777	103.1%
差引	1,368,911	1,231,120	137,791	111.1%
調整勘定等	80,460	123,184	△ 42,724	65.3%
教育活動資金収支差額	1,449,371	1,354,304	95,067	107.0%
施設整備等活動による資金収支				
施設整備等活動資金収入計	448,238	3,783,822	△ 3,335,584	11.8%
施設整備等活動資金支出計	1,917,280	5,793,189	△ 3,875,909	33.0%
差引	△ 1,469,042	△ 2,009,367	540,325	73.1%
調整勘定等	△ 117,614	68,492	△ 186,106	-171.7%
施設整備等活動資金収支差額	△ 1,586,656	△ 1,940,875	354,219	81.7%
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 137,285	△ 586,571	449,286	23.4%
その他の活動による資金収支				
その他の活動資金収入計	2,195,470	2,668,526	△ 473,056	82.2%
その他の活動資金支出計	1,621,286	2,043,095	△ 421,809	79.3%
差引	574,184	625,431	△ 51,247	91.8%
調整勘定等	576	△ 505	1,081	-
その他の活動資金収支差額	574,760	624,926	△ 50,166	91.9%
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	437,475	38,355	399,120	1140.5%
前年度繰越支払資金	6,251,266	6,212,911	38,355	100.6%
次年度繰越支払資金	6,688,741	6,251,266	437,475	106.9%

【事業活動収支計算書】

【①教育活動収入の部】

(単位:千円)

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
学生生徒等納付金	6,117,899	5,886,772	231,127	103.9%
手数料	122,894	115,023	7,871	106.8%
寄付金	51,852	70,574	△ 18,722	73.4%
経常費等補助金	568,527	472,985	95,542	120.1%
付随事業収入	87,578	79,830	7,748	109.7%
雑収入	128,194	137,192	△ 8,998	93.4%
教育活動収入計	7,076,944	6,762,376	314,568	104.6%

【①教育活動支出の部】

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
人件費	3,829,665	3,718,889	110,776	102.9%
教育研究経費	1,987,985	1,759,357	228,628	112.9%
管理経費	737,823	758,705	△ 20,882	97.2%
徴収不能額等	967	343	624	281.9%
教育活動支出計	6,556,440	6,237,294	319,146	105.1%

【①教育活動収支差額】

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
教育活動収支差額	520,504	525,082	△ 4,578	99.1%

『教育活動収入の状況』

(1) 学生生徒等納付金

前年比 2 億 31 百万円増の 61 億 17 百万円となった。

主な増加は、医療栄養学部 1 年生 81 名の授業料等 1 億 40 百万円増加と在学生の授業料の値上げによるものである。

期中の学生生徒数は 5310 名(平成 30 年 5 月 1 日現在)である。

(2) 手数料

前年比 7 百万円増の 1 億 22 百万円となった。手数料の主なものは、入学検定料 114 百万円である。

(3) 寄付金

前年比 18 百万円減の 51 百万円となった。主な寄付金は、100 周年記念事業募金である。

(4) 補助金

前年比 95 百万円増の 5 億 68 百万円となった。主な補助金は、私立大学等経常費補助金 2 億 5 百万円、兵庫県私立学校経常費補助金 3 億 24 百万円である。

(5) 付随事業収入

主なものは、大学学生寮の寮費 67 百万円である。

(6) 雑収入

主なものは、退職金財団交付金収入 1 億円及び施設設備利用料 5 百万円、

その他の雑収入 21 百万円である。
この結果、教育活動収入合計は前年比 3 億 14 百万円 (4.6%) 増の 70 億 76 百万円となった。

『教育活動支出の状況』

(7) 人件費

前年比 1 億 10 百万円 (2.9%) 増の 38 億 29 百万円となった。期中の本務教職員数は 324 名、兼務教職員数は 340 名で、経常収入に占める人件費割合は 52.7% (前年同比率 53.8%) となった。

(8) 教育研究経費

前年比 2 億 28 百万円 (12.9%) 増の 19 億 87 百万円となった。減価償却額を除く経費は 12 億 7 百万円で、前年度より 73 百万円増加 (前年比 6.4% 増) した。経常収入に占める教育研究経費の割合は 27.3% (前年同比率 25.5%) となった。

(9) 管理経費

前年比 20 百万円 (2.8%) 減の 7 億 37 百万円となった。経常収入に占める管理経費の割合は 10.2% (前年同比率 11.0%) となった。

(10) 徴収不能引当金繰入額

学費の徴収不能引当金は当期 1 百万円繰入した。

この結果、教育活動支出合計は前年比 3 億 19 百万円 (5.1%) 増の 65 億 56 百万円となった。

『教育活動収支の状況』

教育活動における教育活動収支は、前年比 4 百万円 (0.9%) 減の 5 億 20 百万円となった。

【② 教育活動外収入の部】

(単位: 千円)

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
受取利息・配当金収入	195,579	150,339	45,240	130.0%
その他の教育活動外収入	0	0	0	-
教育活動外収入計	195,579	150,339	45,240	130.0%

【② 教育活動外支出の部】

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
借入金等利息	0	0	0	-
その他の教育活動外支出	0	0	0	-
教育活動外支出計	0	0	0	-

【② 教育活動外収支差額】

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
教育活動外収支差額	195,579	150,339	45,240	130.0%

『教育活動外収入の状況』

(1) 受取利息・配当金収入

前年比 45 百万円増 (30.0%) 増の 1 億 95 百万円となった。

有価証券、積立特定資産の外国債他受取利息の増加によるものである。

『教育活動外支出の状況』

実績はなし。

『教育活動外収支の状況』

教育活動以外における教育活動外収支は、前年比 45 百万円 (30.0%) 増の 1 億 95 百万円となった。

【③経常収支差額】

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
教育活動収支差額①＋ 教育活動外収支差額②	716,083	675,421	40,662	106.0%

『経常収支差額の状況』

教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計は、前年比 40 百万円 (6.0%) 増の 7 億 16 百万円となった。

【④特別収入の部】

(単位:千円)

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
資産売却差額	4,565	2,023	2,542	225.6%
その他の特別収入	59,481	36,983	22,498	160.8%
特別収入計	64,046	39,006	25,040	164.1%

【④特別支出の部】

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
資産処分差額	24,443	28,914	△ 4,471	84.5%
その他の特別支出	0	0	0	－
特別支出計	24,443	28,914	△ 4,471	84.5%

【④特別収支差額】

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
特別収支差額	39,603	10,092	29,511	392.4%

『特別収入の状況』

(1) 資産売却差額

前年比 2 百万円増の 4 百万円となった。主なものは、大学スクールバスの売却差額である。

(2) その他の特別収入

前年比 22 百万円増の 59 百万円となった。主なものは、中高の施設設備寄付金 43 百万円である。

『特別支出の状況』

(1) 資産処分差額

前年比 4 百万円減の 24 百万円となった。主なものは、機器備品・図書除却差額 24 百万円である。

『特別収支差額の状況』

教育活動・教育活動外以外の特別収支差額は、前年比 29 百万円増の 39 百万円となった。

【⑤基本金組入前当年度収支差額】

(単位:千円)

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
経常収支差額③＋ 特別収支差額④	755, 686	685, 513	70, 173	110. 2%

『基本金組入前当年度収支差額（事業活動収支差額）の状況』

経常収支差額と特別収支差額の合計は、前年比 70 百万円（10. 2%）増の 7 億 55 百万円となった。

【⑥当年度収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H30 年度決算	H29 年度決算	増減	増減率
当年度収支差額	289, 057	△ 3, 123, 390	3, 412, 447	841. 1%
前年度繰越収支差額	4, 871, 326	7, 994, 716	△ 3, 123, 390	96. 4%
翌年度繰越収支差額	5, 160, 383	4, 871, 326	289, 057	105. 9%

『基本金組入・当年度収支差額の状況』

第 1 号基本金は、施設設備の取得 3 億 66 百万円を組み入れ、第 3 号基本金には認定留学支援奨学基金 1 億円を組み入れた。

【貸借対照表】

【資産の部】

(単位:千円)

科目	H30 年度末	H29 年度末	増減	増減率
固定資産	43,685,471	43,387,812	297,659	100.6%
有形固定資産	23,907,911	24,284,271	△ 376,360	98.4%
土地・建物・構築物	19,472,501	19,751,548	△ 279,047	98.5%
機器備品・図書・車両	4,435,410	4,532,723	△ 97,313	97.8%
特定資産	12,859,458	12,233,012	626,446	105.1%
その他の固定資産	6,918,102	6,870,529	47,573	100.6%
有価証券	6,804,328	6,748,976	55,352	100.8%
教育ソフトウェア他	113,774	121,553	△ 7,779	93.6%
流動資産	6,837,389	6,421,254	416,135	106.4%
現金預金	6,688,741	6,251,266	437,475	106.9%
未収入金他	148,648	169,988	△ 21,340	87.4%
資産合計	50,522,860	49,809,066	713,794	101.4%

『資産の状況』

固定資産は、2億97百万円増加し43億85百万円となった。

特定資産(積立金)は6億26百万円増加、流動資産は、4億16百万円増加し68億37百万円となった。

この結果、資産総額は前年度より7億13百万円増加し50億522百万円となった。

【負債の部】

(単位:千円)

科目	H30 年度末	H29 年度末	増減	増減率
固定負債	1,137,248	1,126,066	11,182	100.9%
退職給与引当金	1,137,248	1,126,066	11,182	100.9%
流動負債	1,806,531	1,859,605	△ 53,074	97.1%
前受金	1,188,086	1,140,545	47,541	104.1%
未払金他	618,445	719,060	△ 100,615	86.0%
負債合計	2,943,779	2,985,671	△ 41,892	98.5%

『負債の状況』

退職給与引当金が11百万円増加し、流動負債は53百万円減少したため、負債総額は前年度より41百万円減少し29億43百万円となった。

【基本金の部】

(単位:千円)

科目	H30 年度末	H29 年度末	増減	増減率
第 1 号基本金	40,364,699	39,998,069	366,630	100.9%
第 3 号基本金	1,610,000	1,510,000	100,000	106.6%
第 4 号基本金	444,000	444,000	0	100.0%
基本金合計	42,418,699	41,952,069	466,630	101.1%

【繰越収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H30 年度末	H29 年度末	増減	増減率
繰越収支差額	5,160,382	4,871,326	289,056	105.9%

【負債・純資産の部合計】

(単位:千円)

科目	H30 年度末	H29 年度末	増減	増減率
負債・純資産 計	50,522,860	49,809,066	713,794	101.4%

(純資産)

(単位:千円)

	H30 年度末	H29 年度末	増減	増減率
基本金＋繰越収支差額	47,579,081	46,823,395	755,686	101.6%

『純資産の状況』

当期において第 1 号基本金に 3 億 66 百万円を組み入れ、第 3 号基本金に 1 億円を組み入れたため、基本金総額は 424 億 18 百万円となった。この結果、総資産から総負債を差し引いた純資産は前年度より 7 億 55 百万円増加し 475 億 79 百万円となった。

(2) 財務状況の推移

事業活動収支計算書(5ヵ年)

(単位: 千円)

科目			H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	5, 897, 851	5, 861, 979	5, 909, 904	5, 886, 772	6, 117, 899
		手数料	121, 334	113, 486	104, 374	115, 023	122, 894
		寄付金	51	10, 000	1, 514	70, 574	51, 852
		経常費等補助金	445, 758	425, 175	422, 612	472, 985	568, 527
		付随事業収入	73, 499	77, 683	81, 494	79, 830	87, 578
		雑収入	129, 004	154, 501	186, 039	137, 192	128, 194
		教育活動収入合計	6, 667, 497	6, 642, 824	6, 705, 937	6, 762, 376	7, 076, 944
	支出	人件費	3, 537, 880	3, 535, 963	3, 623, 365	3, 718, 889	3, 829, 665
		教育研究経費	1, 810, 748	1, 757, 285	1, 785, 800	1, 759, 357	1, 987, 985
		管理経費	593, 730	711, 207	790, 657	758, 705	737, 823
		徴収不能額引当金繰入額	0	4, 189	1, 392	343	967
教育活動支出合計		5, 942, 358	6, 008, 644	6, 201, 214	6, 237, 294	6, 556, 440	
教育活動収支差額		725, 139	634, 180	504, 723	525, 082	520, 504	
教育外収支	収支	受取利息	280, 039	131, 095	118, 819	150, 339	195, 579
		教育活動外収入合計	280, 039	131, 095	118, 819	150, 339	195, 579
		教育活動外支出合計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額		280, 039	131, 095	118, 819	150, 339	195, 579
経常収支差額			1, 005, 178	765, 275	623, 542	675, 421	716, 083
特別収支	収入	資産売却差額	735, 588	125	6, 559	2, 023	4, 565
		その他の特別収入	40, 229	54, 273	50, 712	36, 983	59, 481
		特別収入合計	775, 817	54, 398	57, 271	39, 006	64, 046
	支出	資産処分差額	6, 652	85, 309	132, 228	28, 914	24, 443
		特別支出合計	6, 652	85, 309	132, 228	28, 914	24, 443
	特別収支差額		769, 165	△ 30, 911	△ 74, 957	10, 092	39, 603
基本金組入前当年度収支差額			1, 774, 343	734, 364	548, 585	685, 513	755, 686
基本金組入額			△ 587, 183	△ 100, 000	△ 919, 928	△ 3, 808, 903	△ 466, 629
当年度収支差額			1, 187, 160	634, 364	△ 371, 343	△ 3, 123, 390	289, 057
前年度繰越収支差額			6, 434, 369	7, 621, 529	8, 293, 059	7, 994, 716	4, 871, 326
基本金取崩額			0	37, 166	73, 000	0	0
翌年度繰越収支差額			7, 621, 529	8, 293, 059	7, 994, 716	4, 871, 326	5, 160, 383

主な財務比率（５ヵ年）

科 目		H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	算式
事業活動収支計算書	学生生徒等納付金比率	84.9%	86.5%	86.6%	85.2%	84.1%	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$
	人 件 費 比 率	50.9%	52.2%	53.1%	53.8%	52.7%	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$
	教育研究経費比率	26.1%	25.9%	26.2%	25.5%	27.3%	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$
	経常収支差額比率	14.5%	11.3%	9.1%	9.8%	9.8%	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$
	事業活動収支差額比率	23.0%	10.8%	8.0%	9.9%	10.3%	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$

貸借対照表の推移（５ヵ年）

科目	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
固定資産	41,185,988	41,321,230	42,508,462	43,387,812	43,685,471
流動資産	6,338,394	6,969,991	6,447,082	6,421,254	6,837,389
資産の部合計	47,524,382	48,291,221	48,955,544	49,809,066	50,522,860
固定負債	1,171,285	1,143,862	1,096,355	1,126,066	1,137,248
流動負債	1,498,164	1,558,062	1,721,307	1,859,605	1,806,531
負債の部合計	2,669,449	2,701,924	2,817,662	2,985,671	2,943,779
基本金	37,233,405	37,296,238	38,143,166	41,952,069	42,418,699
繰越収支差額	7,621,528	8,293,059	7,994,716	4,871,326	5,160,382
純資産の部合計	44,854,933	45,589,297	46,137,882	46,823,395	47,579,081
負債及び純資産の部合計	47,524,382	48,291,221	48,955,544	49,809,066	50,522,860

主な財務比率（５ヵ年）

科 目		H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	算式
貸借対照表	固定資産比率	86.7%	85.6%	86.8%	87.1%	86.5%	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$
	固定負債比率	2.5%	2.4%	2.2%	2.3%	2.3%	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資産}}$
	流動比率	423.1%	447.4%	374.5%	345.3%	378.5%	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$
	純資産構成比率	94.4%	94.4%	94.2%	94.0%	94.2%	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資産}}$

（注）純資産＝基本金＋繰越収支差額
 総資産＝負債＋純資産

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

役 員	
理 事 長	中 内 仁
副 理 事 長	上 島 一 泰
副 理 事 長	森 下 榮 生
理 事	森 田 勝 昭
理 事	岡 田 明
理 事	下 村 雅 一
理 事	馬 場 伸 彦
理 事	大 森 敏 江
理 事	秋 元 典 子
理 事	宇 佐 美 眞
理 事	竹 井 誠
理 事	近 藤 三 津 枝
理 事	青 井 さ ゆ き
理 事	阿 部 奈 穂 子
理 事	宮 原 秀 夫
理 事	平 山 一 哉
理 事	小 西 新 太 郎
理 事	吉 沢 英 成
理 事	角 和 夫
監 事	田 村 康 生
監 事	有 澤 美 弥 子

評 議 員	
森 田 浩 一	中 内 仁
松 村 俊 和	上 島 一 泰
前 川 幸 子	森 下 榮 生
寺 尾 純 二	下 村 雅 一
深 澤 貞 信	宮 原 秀 夫
松 本 正 子	吉 沢 英 成
後 田 尚 宏	角 和 夫
森 未 貴	近 藤 三 津 枝
森 田 勝 昭	小 西 新 太 郎
岡 田 明	平 山 一 哉
馬 場 伸 彦	俵 正 市
大 森 敏 江	平 生 誠 三
秋 元 典 子	奥 平 浩 太 郎
宇 佐 美 眞	明 石 巧
竹 井 誠	下 村 治 生
阿 部 奈 穂 子	井 関 和 宏
青 井 さ ゆ き	新 川 由 紀 子
奈 良 山 和 子	島 田 康 史
中 村 祥	山 野 郁 子
柳 井 容 司 子	森 下 あ け み

理 事	1 9 名
監 事	2 名
評議員	4 0 名

学校法人甲南女子学園 組織機構図

